

第3部

その他の取組について

01 釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラム

岩手大学では、農学部食料生産環境学科水産システム学コース（平成28年4月～）と大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラム（平成29年4月～）が新設されたことに伴い、新たな学びの拠点として今春、釜石キャンパスを開設した。

新キャンパス開設を記念して、6月11日に、野田武則釜石市長と岩渕明学長による釜石キャンパス看板除幕式を行うとともに、釜石市民の皆様へ広く岩手大学の教育・研究の取組を紹介するため、市内のホテルで「岩手大学釜石キャンパス開設記念フォーラム」を開催した。

看板除幕式で固い握手を交わす
岩渕明学長（左）と野田武則釜石市長（右）



フォーラムでは、最初に野田武則市長、岩渕明学長による主催者挨拶があり、その後、岩渕明学長から「岩手大学の新たな挑戦～釜石市との連携を通じて～」と題した講話が行われた。

岩渕学長は、平成13年3月5日に岩手大学と県内自治体で最初に相互友好協力協定を締結した釜石市とのこれまでの連携状況、さらに東日本大震災後の釜石市での取組など、具体例を挙げながら説明するとともに、釜石市民の皆様へ釜石キャンパスを活用した教育・研究の今後の展望等を紹介した。



記念講演する岩渕明学長

続いて、高畑義人農学部長から農学食料生産環境学科水産システム学コース、八代仁大学院総合科学研究科長から大学院総合科学研究科地域創生専攻について、それぞれのコース・研究科を開設するに至った背景、教育理念、求める人物像などを説明した。

さらに所属学生の報告では、農学部食料生産環境学科水産システム学コース2年生の小笠原咲紀さんが、学生生活や今後の抱負などを発表した。小笠原さんは、釜石市出身で、東日本大震災で水産業被害を身近で見てきたことから水産分野に興味をもち、進学先を岩手大学の水産システム学コースを選択し、震災から6年たった現在でも、内陸部や沿岸部でボランティア活動を継続している。

また釜石キャンパスで既に教育を受けている大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラム1年生の大場由貴さんは、釜石キャンパスでの研究内容と釜石市での生活について発表した。学生が釜石キャンパスで取り組んでいる研究や釜石での学生生活を伝えることで、釜石市民の皆様が学生をより身近に感じていただく機会となった。



所属学生の報告の様子

フォーラムには100名以上も参加していただき、参加者からは「聞きたいと思っていたことが聞けて、進路決定に役立った」、「釜石市の水産業は課題が多い。課題が多いということは研究すべき事項も多いということ。岩大釜石キャンパスの今後の取り組みに大いに期待する」、「市民の身近に国立大学がやってきます。今後の人材育成としても、地元の子供達等が水産学に興味をもつような様々な企画を展開して頂ければと思います」など、様々な視点から、釜石キャンパスに期待する声が寄せられた。

本学は、今後、釜石キャンパスの教育研究分野を充実させ、新たな地域の創出に取り組んでいく。

02 地域連携フォーラム

岩手大学は県内の11自治体と相互友好協力協定を締結し、実質的な取り組みとして協定締結自治体の中から5市(釜石市、北上市、盛岡市、久慈市、八幡平市)と共同研究を行い、市職員を共同研究員として三陸復興・地域創生推進機構に受け入れている。さらに地元企業や一般市民の方々に共同研究の成果や岩手大学の活動を紹介するため、共同研究に取り組んでいる自治体と共催で地域連携フォーラムを開催している。

● in 盛岡 平成29年11月2日(木)

ライフサイエンス研究をテーマに、本学発ベンチャー企業の健康長寿の実現に向けた商品開発や本学の教員による医薬品産業分野での先進的な研究・事例等を紹介した。



岩手大学 コラボMIL開設10周年記念
地域連携フォーラム
 in 盛岡 2017
 ライフサイエンス 発展に資する産学官連携

ライフサイエンス研究は、健康長寿の追求や、低炭素社会への移行が期待され、産業分野でも注目されています。岩手県において、産学官連携の取組が活発に行われ、成果ももたらしています。本学発ベンチャー企業や、地元企業との共同研究の成果や、本学の活動を紹介します。ライフサイエンスの「産学官」連携による商品開発や、研究・産業の発展に資します！

●日 時 平成29年 11月 2日(木) 14:00~17:30
 ●場 所 盛岡中産学官連携研究センター(コラボMIL)
 ●参加費 無料
 ●申込 一般の方へは不要
 ●申込先 E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp TEL: 019-621-6889 FAX: 019-621-6191

時間	内容
14:00	開会 盛岡市長、岩手大学学長、盛岡市副市長、盛岡市健康推進部長、盛岡市健康推進課長、盛岡市健康推進員、盛岡市健康推進員、盛岡市健康推進員
14:15	基調講演 「産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み」 岩手大学学長 三浦 浩二
14:30	基調講演 「産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み」 岩手大学学長 三浦 浩二
15:15	講演・事例紹介 1 「食生活の改善と健康長寿の実現に向けた取り組み」 岩手大学学長 三浦 浩二 2 「食生活の改善と健康長寿の実現に向けた取り組み」 岩手大学学長 三浦 浩二 3 「食生活の改善と健康長寿の実現に向けた取り組み」 岩手大学学長 三浦 浩二
17:30	閉会

● in 釜石 12月18日(月)

本学釜石キャンパスや、本学教員と地元企業との共同研究や釜石市をフィールドとした研究事例、被災者への学習支援、漁協女性部との活動など地域と密着した活動などを紹介した。



2017 岩手大学 地域連携フォーラム in 釜石

岩手大学と釜石市は、平成19年締結の相互友好協定に基づきこれまで多くの取組を進めてきました。本年12月に釜石市をフィールドとした研究事例、被災者への学習支援、漁協女性部との活動など地域と密着した活動などを紹介し、さらなる取組が期待されます。本学発ベンチャー企業や、地元企業との共同研究の成果や、本学の活動を紹介します。ライフサイエンスの「産学官」連携による商品開発や、研究・産業の発展に資します！

●日 時 平成29年 12月 18日(月) 13:30 受付開始
 ●場 所 釜石情報交流センター(アールズスタイル)1F
 ●参加費 無料
 ●申込 一般の方へは不要
 ●申込先 E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp TEL: 019-621-6889 FAX: 019-621-6191

第一節 (13:30~16:30)
 1. 岩手大学による地域創生への取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 2. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 3. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 4. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二

第二節 (16:30~17:10)
 1. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 2. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 3. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二
 4. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
 岩手大学 学長 三浦 浩二

● in 八幡平 平成30年2月21日(水)

本学と企業の連携による商品開発や、学生による防災教育・観光振興の研究事例紹介。また、本学の技術支援・シーズの紹介を行った。



岩手大学
地域連携フォーラム
 in 八幡平

本学と企業の連携による商品開発や、学生による防災教育・観光振興の研究事例紹介。また、本学の技術支援・シーズの紹介を行った。

●日 時 平成30年2月21日(水) 14:00~17:30
 ●場 所 八幡平ハイツ
 ●参加費 無料

●プログラム

1. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
2. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
3. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み
4. 産学官連携による健康長寿の実現に向けた取り組み

主催: 岩手大学 八幡平

03 首都圏向け報告会

12月3日に日比谷図書文化館コンベンションホールを会場に第2回首都圏向け報告会を行った。この報告会は、東日本大震災から6年9ヵ月が経過し、被災地以外での記憶の風化が懸念されていることから、被災地の現状や課題を首都圏の方々に理解してもらうとともに、被災地の今後についてともに考えていくことを目的に開催した。

岩渕学長のあいさつの後、後援機関を代表して復興庁の清田参事官に挨拶を頂き、「新たなコミュニティのづくりと学生の関わり～地域×学生=?～」をテーマに、地域コミュニティの活動に関わる4グループが取組報告を行った。

三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班長の広田純一農学部教授がコミュニティづくりについて、震災後の被災地の現状を具体的な事例・データを含めて説明し、同班の船戸義和特任研究員が陸前高田市の災害公営住宅で行っている自治会設置支援について活動風景の動画を活用しながら紹介した。

次に、被災地訪問学修やみちのく潮風トレイルマップづくりなどを行っている広田教授の初年次自由ゼミナール受講学生グループ、継続的に被災地でのコミュニティづくりや、こどもの遊び場づくりを行っている本学サークルの三陸復興サポート学生委員会が、これまでの成果や今後の活動予定について紹介した。



被災地のコミュニティづくりについて報告する広田教授



自治会設置支援について報告する船戸特任研究員



参加者からの質問に答える学生

参加者からは、「発想が非常に柔軟だと思う。大人が与えたことを、学生が人生の選択に影響を受けたというほど、学びとしていることに今更ながら驚いた」など学生に対する意見やアドバイスを多数頂いた。

最後に、地域防災教育研究部門の教育学研究科森本晋也准教授が「平成28年度台風10号被害と防災教育」をテーマに、観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風10号の被害、それに対する本学の支援について講演を行った。自分が住む地域の災害リスクを考えて常に避難方法の確認や情報収集すること、水害を防ぐためにはハザードマップを活用することが大事であると防災教育の必要性を説明した。

当日、会場には本学卒業生や三陸の出身者など昨年を上回る100名以上の方に足を運んで頂き、参加者からは「東京にいと被災地というのはとても遠く感じます。東京の方から興味・関心が少なくなっている気がしますので、今後も継続して情報発信していただけたらと思います。」「大学全体が熱くかかわって下さり、頭が下がります。風化させないために頑張ってください。」などの本学に期待する声が寄せられた。本学は震災地の情報量が少なくなっている首都圏で、今後も継続的に報告会等を通じて情報発信に取り組んでいく所存である。



台風10号被害と防災教育について講演する
森本准教授



活動紹介をするサポート学生委員会の学生

04 VMATキックオフシンポジウム

～東北初の動物医療支援チーム発足を考える～ 開催

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の三陸復興部門被災動物支援班は1月20日にVMATキックオフシンポジウムを開催した。VMATとは獣医師や動物看護師などが大規模災害などの際に動物救護活動をするための専門的訓練を受けた獣医療チームのことであり、過去の震災での獣医師等の活動をもとに東北初のVMAT結成に向けて、課題や支援体制などの理解を深めた。

はじめに被災動物支援班の山崎弥生特任研究員が「東日本大震災における岩手大学の取り組み」をテーマに東日本大震災時の活動と現在行っている取組について紹介した。同班は震災直後から被災地に移動診療車（ワンにゃん号）を派遣し、高度獣医療の提供をしたり、被災地の子ども向けに「命について考えるセミナー」を開催し、小動物とふれあうアニマルセラピーなどの被災地支援を行っている。

基調講演では、日本獣医生命科学大学獣医学部の羽山伸一教授が「VMAT災害医療支援チームについて-被災動物救護体制の課題と対策-」と題して、日本の被災動物支援体制の不十分さ、各都道府県にVMATを作り組織化する必要性などを説明した。東日本大震災以降も災害が続き、住民や飼育動物が被災している日本で、共通対策を進めるには行政や動物医療従事者の役割を明確にし、協力体制や人材育成手法を確立していくことが最優先課題であると述べた。群馬県獣医師会が設立した、群馬VMAT隊長で小此木動物病院の小此木正樹院長は「群馬県におけるVMATの取り組みについて」と題して、熊本地震でチームを派遣した活動事例や、動物を連れた傷病者への対応訓練の様子を紹介した上で、被災地で正確に情報収集するためには関係者との訓練が必要不可欠と提言した。

最後に基調講演者2名の他、司会で同班班長の佐藤れえ子教授、パネリストで岩手県獣医師会の佐々木一弥会長、動物愛護団体「動物いのちの会いわて」の下机都美子代表、同班岡田啓司教授を加えパネルディスカッションを行い、「東北のVMAT発足を考える」をテーマに議論され、「獣医療関係だけでなく保健や福祉など他分野の人と常に顔の見える関係を築いておくことが大切である。」「震災時は人命救助が優先だが、ペットのことが気になり、不安な生活を送る被災者は多い。動物の命を救うことで被災者支援につなげたい。」などの意見が出た。

同班は今後も被災動物支援を継続していきながら、獣医師向けのセミナーなどを開き、東北初のVMAT設立を目指していく。



岩手大学の東日本大震災以降の取り組みについて紹介する
三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門被災動物支援班の山崎弥生特任研究員



基調講演を行う
日本獣医生命科学大学獣医学部の羽山伸一教授



基調講演を行う群馬VMAT隊長
小此木動物病院の小此木正樹院長



「東北のVMAT発足を考える」をテーマに議論されたパネルディスカッションの様子